

教科に関する調査の設問別の分析結果

全国学力・学習状況調査 中学校国語 A問題 1

【出題の趣旨】

文章を書く際に、次のことができるかどうかをみる。

・ 主語（主部）に対応させて述語（述部）を適切に書くこと

【学習指導要領の内容・領域】

B 書くこと（第一学年）

工 書いた文章を読み返し、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、読みやすく分かりやすい文章にすること。
 言語事項（1）（第一学年及び第二学年）
 才 文の中の文の成分の順序や照応、文の組立てなどについて考えること。

1

田中さんは絵の鑑賞文を書き始めています。田中さんが書き始めた文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「モナ・リザ」
レオナルド・ダ・ビンチ作

これは、レオナルド・ダ・ビンチが描いた「モナ・リザ」という絵です。この絵の特徴は、どの角度からみても女性と目が合います。

— 線部「この絵の特徴は、どの角度から見ても女性と目が合います。」は、「この絵の特徴は」と、「目が合います」との言葉の関係が不適切です。この文の内容を変えないように、「合います」の部分を適切に書き直しなさい。

解答類型	1	2	9	無解答
本校の割合 (%)	53.8	0.0	42.3	3.8
広島県の割合 (%)	53.5	0.8	40.8	5.0
全国の割合 (%)	49.1	0.8	44.5	5.6

	正答率
本校	53.8
広島県	54.3
全国	49.8

この問題を解くために必要な力

文を構成するのは「主語」「述語」「修飾語」などの文の成分であることを理解する力
 文の成分には、順序や照応など適切に呼応するための規則性があることを理解する力
 書いた文章を読み返し、習得した知識を使って読みやすく分かりやすい文章に直すことができる力

誤答分析

この文の内容を変えずに主述の関係を整えるためには、「この絵の特徴は」に対応させて「合う」に「こと」などの体言を付ける必要がある。

誤答例

- ・「会ってしまいます」 2人
- ・「向きます」
- ・「会っています」
- ・「同じ直線上にある」
- ・「会って見えます」
- ・無回答 2人
- ・「向き合います」
- ・「会えます」
- ・「会うようになっています」
- ・「会いました」
- ・「ついてきます」

→ 26人中、13人が主語（主部）に対応させて述語（述部）を適切に書くことができていない。

調査結果の分析をふまえた指導改善のポイント

全国学力・学習状況調査 中学校国語 A問題 1

「基礎・基本」定着状況調査 三 1

【単元名】文の組み立て

調査結果からみる課題

【課題となる力】

文を構成するのは「主語」「述語」「修飾語」などの文の成分であることを理解する力
文の成分には、順序や照応など適切に呼応するための規則性があることを理解する力
書いた文章を読み返し、習得した知識を使って読みやすく分かりやすい文章に直すことができる力

【指導上の課題】

主語と述語、修飾語と被修飾語の適切な関係、対応について、述語に対応する主語は何か、主語に照応した適切な述語はどう書けばいいのかといった言語事項に関する基礎的・基本的な知識を定着させる指導の工夫が十分ではない。

「書くこと」の指導において、選材や構成の段階で見直しながら書かせたり、推敲において自分の表現を文の組み立ての視点から見直し、書き直させる指導の工夫が十分ではない。

指導改善のポイント

文の成分について理解し、その知識を活用して読みやすい文章に直す

【指導の工夫】

「文の成分」についての基礎的・基本的な知識の習得を徹底する。

文の成分には、順序や照応など適切に呼応するための規則性があることを理解させる。

書いた文章を読み返し、自分の表現を文の組立ての視点から見直し、読みやすい文章に書き直させる。

「文の成分」についての基礎的・基本的な知識の習得を徹底する。

文の成分「主語」「述語」「修飾語」「接続語」「独立語」についてそれぞれの働きや役割について様々な問題を通して理解する。

文の成分には、順序や照応など適切に呼応するための規則性があることを理解させる。

学習した知識を活用して、適切に照応していない文節を適切に直す。

「述語」に対応した「主語」を抜き出し、「主語」と「述語」の関係を理解する。

書いた文章を読み返し、自分の表現を文の組立ての視点から見直し、読みやすい文章に書き直させる。

文章を文の組立ての視点から読み直し、照応していない関係に気付く。

照応していない文の成分を書き直し、読みやすく分かりやすい文章に書き直す。

中学校第1学年 国語科学習指導案 単元名：文の組み立て

日時・場所 平成21年9月29日(火) 5校時
学年・学級 1年A組 15名(男子7名 女子8名)

単元について

中学校において、文法の学習内容は次の通りである。

第1学年で文節や単語などの言葉の単位を学習し、文節の関係を示す文の組み立てや指示する語句と接続する語句について理解を深める。

第2学年では単語の性質によって品詞分類することを通して、自立語や付属語の働きや活用する語句について学習する。

第3学年では付属語である助詞と助動詞の働きを学習する。

単に知識として習得させるだけでなく、学習指導要領「書くこと」の指導事項Ⅰ「推敲」に「書いた文章を読み返し、表記や語句や用法、叙述の仕方などを確かめて、読みやすく分かりやすい文章にすること。」とあるように書いた文章を読み返し、文法で学習したことを生かして推敲し、書き直すことができる能力を育成する。

調査結果からみる課題

< 誤答分析から >

全国学力・学習状況調査 A問題¹

(1) 問題の概要

「この絵の特徴は、どの角度から見ても女性と目が合います。」の中で、言葉の関係が不適切な部分を文の内容を変えないように「合います」の部分を適切な述語になるように書き直す。

(2) 出題の趣旨

主語(主部)に対応させて述語(述部)を適切に書くことができるかどうかをみる。

(3) 誤答分析

この文の内容を変えずに主述の関係を整えるためには、「この絵の特徴は」に対応させて「合う」に「こと」などの体言を付ける必要がある。

誤答例

- | | |
|---------------|----------------|
| ・「会ってしまいます」2人 | ・「向き合います」 |
| ・「向きます」 | ・「会えます」 |
| ・「会っています」 | ・「会うようになっています」 |
| ・「同じ直線上にある」 | ・「会いました」 |
| ・「会って見えます」 | ・「ついてきます」 |
| ・無回答 2人 | |

→ 26人中、13人が主語(主部)に対応させて述語(述部)を適切に書くことができていない。

(1) 問題の概要

「稲村は、ぶあつい手を横にふった。」の「ふった」に対する主語を選ぶ。

(2) 出題の趣旨

単語の働き，文の成分，文の組み立てを理解できているかどうかをみる。

述語（述部）に対応する主語（主部）を選ぶことができるかどうかをみる。

(3) 誤答分析

「ふった」に対応する主語は「稲村は」である。

誤答例

- ・「手を」が主語であるとした生徒が26人中12人で正答率は53.8%であった。
- 「ぶあつい」や「横に」を主語とした生徒はいなかった。
- 無回答の生徒はいなかった。
- 「ふった」のは「手」であることから，主語が「手を」であると考えたのではないかと考えられる。
- 「ふった」という動作が誰の動作であるかということが主語になることに結びついていない。

< 指導上の課題 >

主語と述語，修飾語と被修飾語の適切な関係，対応について，述語に対応する主語は何か、主語に照応した適切な述語はどう書けばいいのかといった言語事項に関する基礎的・基本的な知識を定着させる指導の工夫が十分ではない。

「書くこと」の指導において，選材や構成の段階で見直しながら書かせたり，推敲において自分の表現を文の組み立ての視点から見直し，書き直させる指導の工夫が十分ではない。

指導改善のポイント

(1) 指導内容・指導方法について

単語の働き，文の成分，文の組み立て等，言語事項に関する基礎的・基本的な知識の定着，知識を活用する力の育成のため，次の2点を意識して指導する。

練習問題の出題の種類を工夫し，言語事項に関する基礎的・基本的な知識の定着を図る。

「書くこと」の推敲の指導において，自分で読み直すだけでなくグループで読み合い，誤りを指摘し合ったり，表現の仕方を学び合ったりして，自分の表現に役立てさせる。

(2) 「ことばの教育」との関連

「言語技術」を活用した指導を通して生徒に身につけたい力は次の通りである。

文章を文の組み立ての視点からグループで読み合い，推敲する場面

・・・ 相手や目的に応じて必要な情報を整理して話す力

単元の目標

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none">・ 既習事項を積極的に振り返ろうとする。・ 文章を推敲するとき，他者の意見を参考にしたり，誤りを指摘したりしようとする。	<ul style="list-style-type: none">・ 文章を読み返し，表記や語句の用法，叙述の仕方などを確かめて，読みやすく分かりやすい文章に直すことができる。	<ul style="list-style-type: none">・ 単語の働き，文の成分，文の組み立てについて理解できる。

指導と評価の計画

(全4時間)

次	学習内容(時数)	評 価			
		関	書	言	
一	・ 主語・述語の関係を理解する。 (1)			<ul style="list-style-type: none"> ・ 文節の働きを理解し、「主語」「述語」などの文の成分を理解している。 ・ 文の組み立てにおいて、「主語」「述語」の関係を理解している。 	ワークシート 生徒の反応 プリント
	・ 修飾・被修飾の関係を理解する。 (1)			<ul style="list-style-type: none"> ・ 文節の働きを理解し、「修飾語」などの文の成分を理解している。 ・ 文の組み立てにおいて、「修飾・被修飾」の関係を理解している。 	ワークシート 生徒の反応 プリント
	・ 文節(連文節)どうしの関係から、文の組み立てを考える。 (1)			<ul style="list-style-type: none"> ・ 「連文節」とは何かを理解している。 ・ 文節(連文節)がどのような関係にあるかを理解している。 	ワークシート 生徒の反応 プリント
二	・ 文章をグループで読み合い、推敲する。 (1) 本時			<ul style="list-style-type: none"> ・ 文章を読み返し、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、読みやすく分かりやすい文章に直すことができる。 	ワークシート 生徒の反応

本時の学習

(1) 本時の目標

文章を読み返し、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、読みやすく分かりやすい文章に直すことができる。

(2) 本時の学習展開

学習活動	指導上の留意事項	評価規準	評価方法
1 既習内容について復習する。			
「主語」「述語」の関係、「修飾・被修飾」について確認する。	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; display: inline-block;"> しっかり教える </div>		
2 本時の目標を確認する。			
文章を読み、適切でない部分を書き直して、読みやすく分かりやすい文章にしよう。			
3 文章を読み、推敲する。			
T) 次の文章は主語と述語の関係が適切でなかったり、主語がなかったりします。読み手に伝わりやすくするためには、どのように書き直したらいいでしょう。			

<p>文章を読み，推敲する。</p> <p>書き直した文章をグループで読み合う。</p> <p>グループで決めた直し方を発表する。</p> <p>新しい課題について，文章を読み，推敲する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 文の組み立てにおいて，文節の関係が不適切な文章を用意する。 書き直した理由を説明させる。 <p>相手や目的に応じて必要な情報を整理して話す力</p> <ul style="list-style-type: none"> 誤りを指摘し合ったり，表現の仕方を学び合ったりさせ，グループで統一した推敲をさせる。 自分たちのグループとの共通点や相違点を意識しながら聞かせる。 グループで話し合ったことを参考にして個人で考える。 	<p>じっくり考えさせる</p> <p>単語の働き，文の成分，文の組み立てについて理解し，読みやすく伝わりやすい文章に直すことができる。</p>	<p>ワークシート</p>
<p>4 学習のまとめをする。</p>			
<p>振り返りカードに記入する。</p> <p>今日の学習のまとめを発表させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 意志の疎通をうまく行うためには，どのような文章がよいかということを考えることの重要性を押さえる。 		

検 証

検証の方法

文章を読み直し、適切に照応していない部分に気付く事ができ、適切に直して読みやすく分かりやすい文章にすることができる力の変容をみる。

次の文章を適切に書き直し、読みやすく分かりやすい文章に直しなさい。

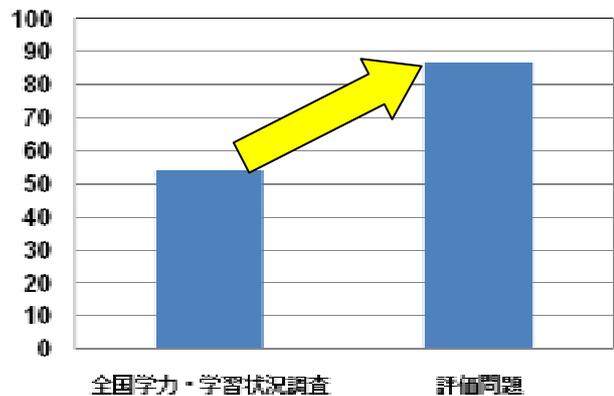
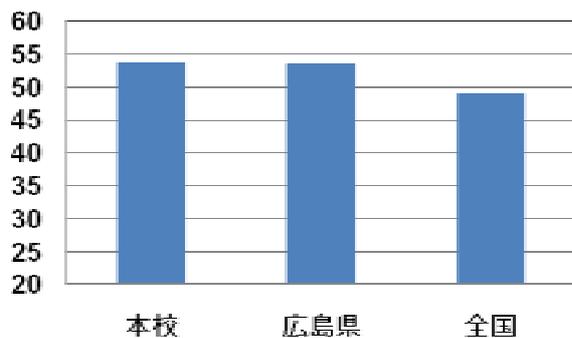
田熊中学校では、九月二十日に最後の体育大会が行われました。スローガンは「完全燃焼」です。わたしがいちばん心に残ったことはみんなが百米トール走を一生懸命走りました。

三年生は中学校最後の体育大会なので、とてもがんばっていました。わたしは三年生のがんばりを見て、「わたしも三年生になったらこんなに見えるのだろうか」と思いながら見ていました。

わたしは赤組は優勝しました。とてもうれしかったです。

検証結果

全国学力・学習状況調査 A問題 1



分析・考察

- 授業後の評価問題では、平成 21 年度全国学力・学習状況調査に比べて、33.2%上昇した。文法上の誤りを自分で直した後、相互に検討する活動を仕組み、分かりやすく伝えるにはどうすればいいか相互に検討し合ったことで成果があったと考える。
- 主述のまちがいに気付き、書き直す際に助詞を書き直すだけでなく、難しい言い回しにしようとするので、内容をできるだけ変えずに書き直すように練習をさせる必要がある。